

日本臨床検査医学会 2013 年度 第 4 回理事会 議事録

日 時：2013 年 12 月 14 日（土）12：00～15：00

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：村田 満理事長，前川真人副理事長，矢富裕総務理事、北島勲会計理事，
宮地勇人，米山彰子，村上正巳，~~大~~谷直人，安東由喜雄，尾崎由基男，藤田清貴，
賀来満夫，本田孝行，和田隆志，田窪孝行，杉浦哲朗，康 東天 各理事
一山 智，高木 康 監事（以上 19 名）

欠席者：佐守友博，野島孝之，横田浩充，渡邊直樹 各理事（4 名）

I 会に先立ち、村田満理事長から挨拶があり、村上正巳 理事、田窪孝行 理事を 議事録署名人に定めて理事会の議事を進めた。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の 2013～2014 年度（一部 2015 年度）の支部総会・例会予定、支部地方会予定、支部所属の人事変更等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（藤田清貴 担当理事）

平成 24-25 年度学術推進プロジェクト研究 4 課題への助成金について計画書に計上してある予算に沿った使用とすること、加入学会の会費ならびに参加費等の使用は認めないこと、26-27 年度学術推進プロジェクト研究課題募集について、日程、前回と同様の募集内容とすること、4 年任期満了となった委員は交代となるが、年度末までに検討することが報告された。

2) 編集委員会（宮地勇人 担当理事、村上正巳 委員長）

2014 年 1 月 1 日から新設されるカテゴリーである Letter の詳細について、利益相反に関する指針に基き、投稿の際に提出頂く COI 報告書様式について検討し、他学会の様式を参考とすることが報告された。

3) 教育委員会（北島 勲 担当理事）

2017 年から新専門医機構の主導による専門医制度が始まるため、2014 年 3 月までに学会の基本研修プログラムを策定するよう要望があった。これに基づき、基本研修プログラム案を作成し、理事会で確認後に会員の意見を聞く予定であること、指導医用のマニュアル作成に取り掛かったこと、第 60 回学術集会(11/2)において、日本医師会、臨床検査専医会と共催で臨床検査を学ぶ若手医師の集いを開催し、50 名程度が参加し盛会であったことが報告された。

4) 学会賞委員会（矢富 裕 担当理事）

2013 年より学会賞規定を改正したが特に大きな問題はなかったこと、学会賞応募に生理検査部門の応募がなかったため来年度は評議員等を通じて生理部門の会員にも応募を呼びかけること、学術集会での受賞講演について、多くの会員が参加できるようなスケジュールを提案することが報告された。

5) 臨床検査点数委員会（米山彰子 担当理事）

平成 26 年度診療報酬改定提案書について、当会から提出したもの 35 件、当会が共同提案したもの 5 件、計 40 件を提出したこと、内保連から厚労省保険局医療課長宛てに、「生体検査に関する提言」、「病原微生物遺伝子検査について(検討の依頼)」が提出されたこと、内保連から、平成 26 年度の年会費について、現行 10 万円から 20 万円への増額が検討されているとの説明があったこと、また、臨床検査振興協議会で、臨床検査の臨床的価値とコスト、臨床検査の診療報酬の仕組み、検体検査の性能と診療報酬への反映、コンパニオン診断薬の審査・承認体制の整備の 4 つの分野について検討し、厚労省医政局経済課長、保険局医療課長宛てに提言書を提出したことが報告された。

6) 標準化委員会（前川真人 担当理事）

平成 24 年～25 年は、検体と質をキーワードとして「検査目的に適合した検体の質を確保するための検体保存評価

法の検討」に関する活動を行い、24年は実際の検討作業を主とし、25年は、検討結果の解析および結果の公開を主として活動したこと、第60回学術集会で「ヒト液性試料の質一検査や解析に適正な試料を売るために」と題したシンポジウムを委員会企画として開催したこと、「検査目的に適合した検体の質を確保するための検体保存評価法の検討」結果を、委員、統計専門家による解析も経て処理し論文にするべく執筆中であること、また、共用基準範囲WGは年内の全面公開に向けて準備中であることが報告された。

7) 精度管理委員会（谷直人 担当理事、前川真人 委員長）

2013年度CAPサーベイ経過状況について、2013年度CAP国際臨床検査成績評価プログラム(CAPサーベイ)登録参加施設は109施設であったこと、2012年度から追加された遺伝子関連分野のみの参加施設も6から13施設に増えたこと、2014年度CAPサーベイ案内の内容確認、2015年度CAPサーベイ新規項目の選定を行っていること、グローバルニュース電子版の活用と、委員会委員が記事執筆を引き続き行うこと、第61回学術集会での委員会企画プログラム企画について、そして、委員会委員については全員継続することとなったことが報告された。

8) EBLM委員会（村上正巳 担当理事）

第60回学術集会でおこなった教育セミナーには、基礎編21名、応用編に23名の参加者があり概ね好評を得たこと、シンポジウムでは、多施設間の臨床検査データの研究活用について課題を提示したこと、委員会では、今後、疾患別症例データベース構築に向けた活動の方向性を決定したことが報告された。

9) 倫理委員会（村上正巳 担当理事）

臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用についての学会の見解（改定2010年公表）について、学術集会演題登録時に簡単なチェックを設けるといった意見が出されたが、そのチェック方法について常任理事会に相談することとなったこと、また、この見解の遵守状況や意見・問題点等を、検査部長・技師長会メンバーを対象として簡単なアンケートをすること、委員の交代について、任期満了の委員は交代することとなったことが報告された。

10) 利益相反委員会（村上正巳 担当理事）

医学研究の利益相反（COI）に関する指針の内容を確認したこと、7月に実施された日本医学会の「医学研究に関する利益相反（COI）対応の現状についてのアンケート調査」での未決定事項について当会の方針を検討・決定し、今後の作業スケジュールについて確認を行ったこと、第4回日本医学会分科会利益相反会議に佐藤尚武委員長が出席したこと、日本医学会医学研究のCOIマネジメントに関するガイドライン改定案について意見募集が行われており当委員会が担当して回答予定であること、細則およびCOI申告書式の作成が遅れているが、2013年度内にはメール会議で委員に案を提示し最終調整を行う予定であることが報告された。

11) コンプライアンス委員会（村上正巳 担当理事）

昨年策定した内規案を古川俊治弁護士、会則改定委員会に検討を依頼した結果、「処分の内容を規定するように」との指示があったため討議の結果、訓告、理事解任、評議員（社員）解任、会員資格停止、機関誌（臨床病理）投稿禁止を内規に規定し、古川弁護士の確認を得たことが報告された。

12) ガイドライン作成委員会（北島 勲 担当理事）

次期委員会委員について検討し、副委員長として古川泰司先生、吉田博先生が承認されたこと、臨床検査のガイドライン JSLM2012 発刊までの問題点・反省点について、①ガイドラインの冊子が厚みを増したことで従来のメール便で送付することができず、2012年度内の送付ができなかった。今後は冊子での刊行が良いかも含めて検討する余地がある。②経費削減の意味でも学会員を中心とした執筆者の人選を心がけることが挙げられたこと、ガイドラインを周知するため、当会HPから無償ダウンロードを可能にするかどうかを検討し、冊子の販売が落ちることを回避するため、一括DLはせず、項目ごとにDL可能とすることとなったこと、ガイドライン2012の最終ページに「製作・販売：株式会社宇宙堂八木書店」と記載されているのは誤解を招くために、次回は「製作・販売：日本臨床検査医学会」と表示することとしたこと、第60回学術集会時、委員会特別企画「臨床検査のガイドライン JSLM2012の活用法～改訂のポイントを一刀両断～」を開催したこと、本ガイドラインを話題とした座談会が日本内科学会平成25年12月号雑誌で紹介されること、その際の大学病院勤務医、一般病院勤務医、開業医、研修医からの意見を改訂の参考とすること等が報告された。

13) 臨床検査室医療評価委員会（米山彰子 担当理事）

臨床検査室の現状を正確に把握し、診療内容が類似している全国の同規模病院の検査室と自施設を比較することで、存在価値をアピールしたり改善に役立てたり出来るような評価基準を作成することを目標とすること、評価の視点を検査態勢、臨床支援体制、経営的、学術的の4つとし、担当を決め今年度中に素案を作成することを目指すことが報告された。

14) 専門医・管理医委員会（北島 勲 担当理事）

専門医会 HP に公開されている「ぼくらは臨床検査専門医」を当会 HP からリンクを貼る提案、管理医から専門医へのステップアップについて、双方でコミュニケーションをはかる提案があったこと、そして、専門医・管理医委員会の今後について、「専門医、管理医数の増加と認知度を高める具体的方策を検討する」としているが、専門医制度が大きく変わるが、当会としての専門医の在り方が明確にならないと本委員会活動は難しいため、来年度は、本委員会を一度解散し他の専門医に関連する委員会と合同の形とするのがよいのではないかと提案がなされたことが報告された。

15) 遺伝子委員会（宮地勇人 委員長）

JCCLS「遺伝子関連検査に関する日本版ベストプラクティスガイドライン」に基づく体制整備及び「遺伝子関連検査の検体品質管理マニュアル承認文書」の改定作業について、遺伝学的検査の動向と課題、臨床検査振興協議会医療政策委員会 WG-D 「コンパニオン診断薬」 会議報告、第 13 回国際人類遺伝学会の開催、多項目遺伝子検査用の核酸品質評価について報告された。

16) 医療安全委員会（久谷直人 担当理事）

学術集会における医療安全シンポジウム講演内容等について、当会 HP に「医療安全インフォメーション」のコーナーを設定し情報発信することとなったこと、次回学術集会でのシンポジウムのテーマについて、現在、病院機能評価ではチーム医療と各部署間の情報共有、質と医療安全が重視されており、中でもケアプロセス評価ではチーム医療に焦点が当たっているため「チーム医療」となったこと、講演者については今後検討する予定であることが報告された。

17) チーム医療 WG（米山彰子 担当理事）

本 WG を正式委員会として再編し継続的活動を行うべきとなり、理事長宛ての上申書を提出するとなり、現委員は継続し、新たに委員を追加していく方針となったこと、今後の活動の方向性が報告された。

18) 広報委員会（佐守友博 担当理事）

臨床検査振興協議会において、臨床検査に関する広報 DVD が完成し、1 枚 300 円で販売予定であることが報告された。

19) 臨床検査専門医制度検討委員会（土屋達行 委員長）

認定研修施設で、他の研修施設から研修中の医師を受け入れ可能な領域を調査集計したこと、臨床検査専門医が行う日常業務指針の作成の方針が報告された。

20) 検査項目コード委員会（康 東天 委員長）

検査項目コード委員会も参加している臨床検査項目マスター運用協議会全体会議の内容が報告された。

3. 第 60 回学術集会報告（神戸 2013/10/31(木)～11/3(日)）（矢富 裕 会長）

2013 年 10 月 31 日(木)～11 月 3 日(日)に神戸国際会議場において開催された第 60 回学術集会の参加人数、会計報告(仮)の報告があった。有料入場者 1874 名、招待者を含めると 1948 名の参加があり大変盛況であった。協力頂いた先生方へ感謝の言葉が述べられた。

4. 第 61 回学術集会報告（福岡 2014/11/22(土)～11/25(火)）（康 東天 会長）

2014 年 11 月 22 日(土)～11 月 25 日(火)に福岡国際会議場において開催予定で、主なプログラムスケジュール、そしていよいよ来年であるため本格的に計画を進めていくことが報告された。

5. 「臨床検査のガイドライン JSLM2012」の無償ダウンロード、アマゾンでの販売開始について

(村田 満 理事長、北島 勲 担当理事、矢富 裕 総務理事)

臨床検査のガイドライン JSLM2012 発刊後 1 年経過にあたり、2014 年 1 月 1 日より章毎に無償ダウンロード、印刷可能とし広く使用してもらうこと、宇宙堂八木書店からの希望もあり、ガイドラインの一般販売に加えて、アマゾンでの販売（分配：アマゾン 630 円、宇宙堂 630 円、学会 1890 円）を開始するというガイドライン作成委員会からの提案について 11 月 29 日の常任理事会で承認し、HP でも公表したことが報告された。

6. 第 13 回 ASCPaLM 会議へのシンポジスト推薦について (村田 満 理事長、前川真人 副理事長)

2014 年 4 月 4 日～5 日に、韓国のソウルで開催される第 13 回 ASCPaLM 会議のシンポジストとして 4 名を推薦したことが報告された。

7. 日本専門医制評価・認定機構「専門医等情報データベース作成等事業」への協力について (村田 満 理事長)

10 月 28 日付けで日本専門医制評価・認定機構より、「専門医等情報データベース作成等事業」への協力で、当会専門医の氏名、フリガナ、生年、取得年月、最新更新年月、勤務先、勤務先住所の 11 月末日締切での提出依頼があり、10 月 30 日の臨時社員総会、11 月 1 日の総会で報告、専門医に本件についてメールで周知し、意見等があればお知らせ頂くように連絡をしたうえで、11 月 28 日に機構へデータを提出したことが報告された。

8. その他

特になし

Ⅲ 審議事項

1. 役員(理事・監事)選挙結果、次期支部理事候補者について

役員(理事・監事)選挙結果について (米山彰子 選挙管理委員長)

2014・2015 年度理事候補者 4 名、前川真人先生、山田俊幸先生、諏訪部章先生、小柴賢洋先生、2014・2015・2016・2017 年度監事候補者 1 名、尾崎由基男先生が開票の結果選出されたことが報告された。

次期支部理事候補者について (村田 満 理事長)

各支部から 2014・2015 年度の支部理事候補者として、北海道支部：清水力先生。東北支部：賀来満夫先生、関東・甲信越支部：本田孝行先生、東海・北陸支部：清島満先生、近畿支部：一山智先生、中国・四国支部：杉浦哲郎先生、九州支部：康東天先生が推薦されたことが報告された。

2014 年 3 月 29 日の定時社員総会で承認を経て、理事はここから 2 年間、監事は 4 年後の定時社員総会までの任期となる。

2. 選挙理事の欠員について (村田 満 理事長、米山彰子 選挙管理委員長)

新細則により理事の定員は 10 名となっており、5 名選出予定のところ、4 名の立候補のため、理事が 1 名定員不足となったことについて、選挙管理委員会としては、業務上支障がないため 1 名不足のままとして、次期に 1 名多く募集することが提案され、常任理事会としてもそれを承認したことが報告された。ただ、細則違反に当たるため、会員から要求があれば対応しなければならないが、理事会でもそのような対応とすることで承認され、定時社員総会においても承認を得ることが条件となる。

3. 利益相反(COI)指針の最終案について (村上正巳 担当理事、村田 満 理事長)

前回の理事会においての意見を踏まえた指針案が提示され、承認された。これに併せて細則、各書式についても本年度中に作成するよう要求された。

4. 臨床検査専門医研修プログラム(案)について (北島 勲 担当理事、村田 満 理事長)

事前に、理事にメールでも送付してあった、教育委員会を中心として策定された臨床検査専門医研修プログラムの総論、各論(一般検査・生化学、血液学、微生物学、輸血学、免疫血清、生理機能検査、検査管理学、遺伝子の各コース)の研修期間、テーマ、摘要が示され、意見に基き、それぞれを専門の理事の先生に最終確認を依頼することとなった。

5. 第30回臨床検査専門医認定試験費用会計収支報告(兵庫)(北島 勲 担当理事)

2013年8月17~18日(土日)に兵庫医科大学病院で実施された第30回臨床検査専門医認定試験での会計収支報告が提示され、承認された。

6. 学術集会補助金について(村田 満 理事長)

学術集会での学会からの補助金は、第58~60回までは、臨床検査自動化振興会からの展示での分担金による収入は無くなったため、学会の特別会計よりそれまでの分担金と同額の1200万円を補填し、一般会計からの補助金の500万円と併せて1700万円を支出していた。

2014年度からは、JACLaSより展示開催後に、当該年の実績により寄付が寄せられる予定であるが確実ではない、しかし2014年度については当会の特別会計から1200万円支出する予算案が10月31日に開催された臨時社員総会で承認されており、予算上は500万円+1200万円で1700万円が計上されている。

今後は、どの程度の補助金が必要であるかについて検討され、まずは、500万円を補助金として、もし支障があるようであれば検討することとなった。2014年度について変更する場合は2014年3月に開催される定時社員総会で補正予算を立てて諮ることとなった。

7. 評議員の再任について(村田 満 理事長)

2014年1月1日付再任の評議員対象者13名について、再任申請状況が示され、全員は必要単位を満たしており、理事会に先立って開催された審査委員会では承認されたことが報告され、理事会においても再任が承認された。

8. IVD「臨床検査室グローバルニュース」について(村田 満 理事長、前川真人 精度管理委員長)

当会員は、本冊子web版の閲覧が可能であるが利用が少ないため周知依頼があった。

しかし、CGIが作成しているこの冊子のみが学会誌に同封されて送付されることに違和感を感じる、また、CGIの広告内容が多いと思われるため再検討することとなり、検討の結果、利益相反委員会に検討依頼することとなった。

9. 人間ドック学会、総合健診医学会「人間ドック健診専門医」からの subspecialty 領域専門医としての認証依頼について(村田 満 理事長)

日本人間ドック学会、総合健診医学会で認定している人間ドック健診専門医について、当会を基本領域学会とした subspecialty 領域専門医として認証依頼があり、関連する領域であるので承認すべきとなり承認された。

10. 血清アルブミン測定法の検査値についての日本肝臓学会からの要望について(村田 満 理事長、矢富 裕 総務理事)

血清アルブミン測定法の検査値について、日本肝臓学会より臨床検査を専門とする当会としての見解を示すことの要望があり、本件について、前川真人標準化担当理事が中心となり、標準化委員会あるいはWGで提言あるいは見解としてまとめて頂くこととなった。

11. その他 矢富 裕 総務理事

2014年度理事会、定時社員総会日程について、以下の通りの予定であることが報告された。

2014年度第1回理事会(旧理事):2014年3月29日(土)11:00~12:00

2013年度に係わる定時社員総会:同日12:30~13:30

2014年度第1回理事会(新理事):同日13:30~15:00

新旧理事懇親会(同学院と合同開催):同日16:00~17:00

IV 懇談事項

1. 委員会再編成等について（村田 満 理事長）

2014・2015 年度の委員会について、再編成案が提案され、以下の方針となりこれに沿い常任理事会で検討する。その後、2014 年の第 1 回理事会（新理事）で委員会を決定する。

- (1) 専門医・管理医委員会を教育委員会に統合する
- (2) JSLM-日臨技 WG はもともと渉外委員会の中に作った WG であるため、これを渉外委員会の業務とする。
- (3) コンプライアンス委員会を常置委員会ではなく倫理委員会下のアドホック委員会とする。
利益相反委員会と倫理委員会を統合するかは、継続審議する。
- (4) チーム医療 WG を本 WG からの要望もあったため委員会組織とする。
- (5) 学術集会委員会を廃止して学術集会あり方委員会を新設し、学術集会のあり方を継続的に議論する。数年契約の PCO の選定、補助金などについての検討することを目的とする。
- (6) 専門医制度整備指針の中で設置が推奨されていることもあるため、専門医研修プログラム・カリキュラム委員会を設置する、または教育委員会を増員して教育委員会がこの機能を担う。

その他

国際委員会は WASPaLM, ASCPaLM の窓口として機能する。

専門医認定試験の標準化、試験問題の公開などの検討は「専門医制度検討委員会」か「試験委員会」が担当する。

2. その他

特になし

V 閉会の挨拶（副理事長）

前川真人副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

議事録署名人

村上正巳 

田窪孝行 